

# 政治学への第一歩

「権力としての政治」への接近

Yasu Seishu  
安世舟 著

**政治を知ることとは我々の運命を切り開くことにも通じよう!!**

政治とは何か、それを明らかにした後に、近代における政治の在り方の近代国家の出現とそれを解明する近現代政治学について概説している。近現代国家においては「国家権力の獲得・配分・維持」が「政治の世界」の中核部分であるがその部分を解明するキーワードとしての「権力概念」が政治の在り方の変化に従ってその内容も変容させていく過程を理論的に考察する。その中で新しい権力概念を探り当て、現代政治動態を透視できるレンズを提供し、政治学の中級者への入門の役割を目指している。「権力の科学」として形成されたアメリカ現代政治学の特質を明らかにする。第一次大戦前の国際政治の復活かと思わせるプーチンのウクライナ侵攻に象徴される「パワー・ポリティクス」の本質を解明する最良の入門書である。



ISBN978-4-910302-02-7  
定価 2750 円 (本体：2500 円)

**【目次】**  
はじめに

- 第一部 「五五年体制」下の日本政治——「決定中枢」の態様を中心として
- 第一章 その歴史的前提——ドイツを座標軸として
- 第二章 「五五年体制」の政治路線と権力構造の変容
- 第三章 日本における政治的指導力の欠如
- 第四章 「五五年体制」の崩壊と政治体制再編の行方——「舵取り」のない日本は、どこへ向かうのか？
- 第二部 二一世紀初頭における転換を模索中の日本政治——「決定中枢」制度の変容を中心として
- 第一章 首相による政治指導の強化を目指す制度改革
- 第二章 新しい「決定中枢」制度下での日本政治の動向
- 第三章 歴史的政権交代と「決定中枢」制度の再編への模索
- 第四章 競争的政党システムの機能不全による「決定中枢」の専制化への傾向——「普通の国家」へ向かう第二次安倍政権の軌跡
- おわりに——日本はどこへ向かうのか？

**[著者紹介]**

安世舟 (Yasu Seishu) 大東文化大学名誉教授・政治学博士

1935年福岡県生まれ。明治大学大学院政治経済学研究科政治学専攻博士課程修了。東京教育大学講師を経て、1973年大東文化大学法学部助教授、1978年同教授となる。ドイツ・マンハイム大学客員教授。専門は19-20世紀のドイツ国家学、政治理論、政治史。

主な著訳書 H・ヘラー『国家学』(未来社、1971年、単訳)、『ドイツ社会民主党史序説』(御茶の水書房、1973年)、D.E.ブランド/K.W.ワトキンス『イギリスは甦るか—政治経済の分析と展望』(サイマル出版会、1973年、共訳)、C・フリードリヒ『政治学入門』(学陽書房、1977年、監訳)、『近代政治思想史 3』(有斐閣新書、1978年、共著)、『政治学への接近』(学陽書房、1978年共著)、H・ヘラー『ドイツ現代政治思想史』(御茶の水書房、1981年、単訳)、E・マティアス『なぜヒトラーを阻止できなかったか—社会民主党の政治行動とイデオロギー』(岩波書店、1984年、共訳)、C・A・リーズ『事典政治の世界』(御茶の水書房、1978年、共編訳)、Ch・ミュラー他編『ワイマール共和国の憲法状況と国家学』(未来社、1989年、共編訳)、W・モムゼン『マックス・ヴェーバーとドイツ政治 1890~1920』I・II (未来社、1993年~1994年、監訳)、『現代政治学の解明』(三嶺書房、1999年、単著)、『20世紀のドイツ政治理論』(年報政治学、岩波書店、2002年、編著)、C・ゾンヒル『現代ドイツの政治思想家』(岩波書店、2004年、監訳)、D・シントラー『憲法と社会構造』(有信堂、2005年、監訳)、C・ゾンヒル『ドイツ政治哲学—法の形而上学』(風行社、2012年、共訳)。

WORLD DOOR	
年 月 日	
発注者	<h2 style="color: green;">政治学への第一歩</h2> <p style="color: green; font-weight: bold;">「権力としての政治」への接近</p>
様	
安世舟 著	
定価 (2,750 円)	
部数	部